

高知県金融経済概況

【概 論】

高知県の景気は、持ち直しの動きが続いているものの、そのペースは鈍化している。

前回の概況公表時（5月中旬）以降の県内景気を見ると、個人消費は持ち直している。観光は着実に回復している。設備投資は持ち直しの動きに一服感がみられるほか、住宅投資と公共投資は弱めの動きとなっている。この間、製造業の生産は持ち直しの動きに一服感がみられる。そうしたもと、労働需給面は緩やかに改善しているほか、雇用者所得は持ち直している。

先行きについては、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きの循環が続くもとで、持ち直しの動きが続くとみられる。ただし、①コスト上昇と価格転嫁の動向、②人手不足の影響、③海外経済の動向の影響等について、注視していく必要がある。

【各 論】

1. 需要項目別の動向

公共投資は、弱めの動きとなっている。

発注の動きを示す公共工事請負金額をみると、23/5月は前年を上回った（23/5月前年比：+20.4%＜速報値＞）。

設備投資は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

2022年度の設備投資額（23/3月短観）は、概ね前年度並みの計画となっている（全産業前年度比：▲1.3%）。

2023年度の設備投資額は、非製造業を中心に前年度の大型投資の反動がみられるが、維持更新目的やBCP対応等の投資を底堅く実施していくことが予定されている（同：▲26.6%）。

この間、企業からみた生産設備や営業用設備の過不足感（23/3月短観）は、過剰超となっている（生産・営業用設備判断D. I. <「過剰」－「不足」>、22/12月：+4→23/3月：+8）。

個人消費は、持ち直している。

大型小売店¹の販売動向は、緩やかな持ち直しが続いている。家電量販店の販売動向は、弱めの動きがみられている。乗用車新車登録台数 (23/4月前年比: +15.9%) は、供給制約の影響が残るもとの、なお低めの水準となっている。コンビニエンスストア、旅行取扱高は、持ち直している。

観光は、着実に回復している。

23/4月の県内の主要観光施設への入込客数 (23/4月前年比: +35.3% <速報値>) と主要旅館・ホテルの宿泊客数 (同: +14.0%) は、ともに前年を上回った。

住宅投資は、弱めの動きとなっている。

23/4月の新設住宅着工戸数は、前年を上回った (23/4月前年比: +39.0%) 。

2. 生産

製造業の生産は、持ち直しの動きに一服感がみられる。

機械は、持ち直しの動きに一服感がみられる。鉄鋼は、持ち直している。食料品は、一部でやや弱めの動きがみられるが、全体では横ばい圏内で推移している。パルプ・紙・紙加工品、窯業・土石製品は、弱めの動きとなっている。

3. 雇用・所得

労働需給は、緩やかに改善している。

23/4月の有効求人倍率は、前月より小幅に低下した (23/4月: 1.19倍) 。

雇用者所得は、持ち直している。

23/3月の1人当りの現金給与総額は、前年を小幅に上回った (23/3月前年比: +0.1% <速報値>) 。

¹ 県内の百貨店、ショッピングセンター、スーパー等。

4. 物価

消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）は、生鮮食品を除く食料等が前年を上回ったため、前年比プラスとなった（23/4月前年比：+3.3%）。

5. 企業倒産

企業倒産は、低めの水準で推移している（23/5月：倒産件数2件<前年1件>、負債総額146百万円<同120百万円>）。

6. 金融

実質預金（銀行、信金、信組）は、前年を上回っている（23/4月末残前年比：+0.3%）。

貸出（同）は、前年を上回っている（同：+0.8%）。

貸出約定平均金利（銀行、信金）は、前月を上回っている（23/4月：1.242%）。

以 上

【本文中の使用計数等の出所】

- ・ 乗用車新車登録台数：四国運輸局「自動車保有台数と販売状況速報」、主要観光施設への入込客数：高知県「月別観光施設利用実績」、新設住宅着工戸数：国土交通省「建築着工統計調査報告」、公共工事請負金額：西日本建設業保証株式会社「高知県内の公共工事動向」、有効求人倍率：厚生労働省「一般職業紹介状況」、現金給与総額：高知県「毎月勤労統計調査地方調査」、消費者物価（高知市、生鮮食品を除く総合）：総務省「消費者物価指数」、企業倒産：東京商工リサーチ「高知県企業倒産状況」。
- ・ その他の項目は、日本銀行高知支店が個別に収集したもの。
- ・ なお、利用統計は公表月によって異なる。